

NIPPON

かわら版

77号

日本製紙

発行所 東京都千代田区神田駿河台4丁目6番地 〒101-0062 日本製紙株式会社新聞営業本部 電話 03-6665-1030 FAX 03-6665-0319 www.nipponpapergroup.com/ newsprint@nipponpapergroup.com ©日本製紙株式会社2025



てい だん

新春三者鼎談

常務執行役員八代工場長 山邊 義貞
執行役員岩沼工場長 石岡 直洋
執行役員新聞営業本部長 谷口 哲章

新年あけましておめでとうございます。本年も何とぞよろしくお願い申し上げます。
日頃より当社製品をご愛顧頂き、誠にありがとうございます。
当社は昨年8月、八代工場のN2マシンを2025年6月末をめにに停機することを発表しました。
今後は八代工場N1マシンと岩沼工場で新聞用紙を生産してまいります。
今号では、八代工場の山邊工場長、岩沼工場の石岡工場長、そして新聞営業本部の谷口本部長による、三者鼎談形式でお話を伺いました。新聞用紙の持続可能性に向けた取り組みや考えを、工場並びに営業の立場からお話頂きましたのでぜひご一読ください。本年も皆様にとって素晴らしい一年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。

八代工場N2マシン
停機についての思い

山邊工場長 (以下、山邊)
私は1987年に入社し、通算で約11年間八代工場 (以下、八代) に勤務しました。その間、N2マシン (以下、N2) が建設され、私にとって特別な存在となりました。N2は九州唯一の新聞用紙マシンとして新聞用紙の安定供給

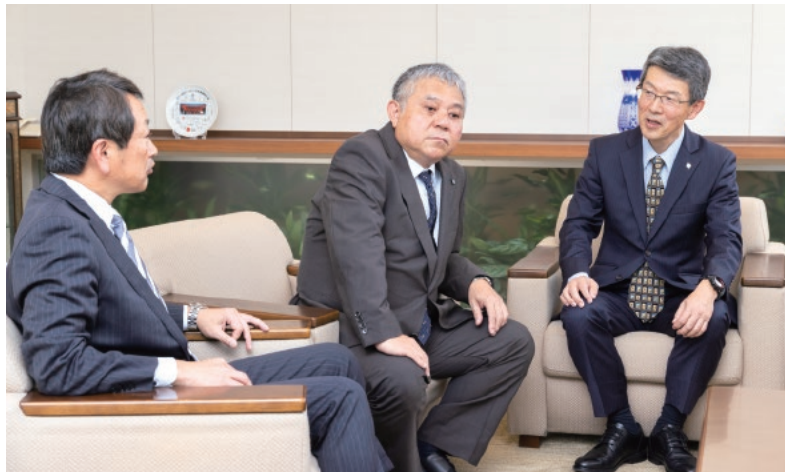
と八代の発展に多大な貢献をしてきました。それだけに大きな寂しさを感じています。多くの仲間も同じ思いであることでしょう。

石岡工場長 (以下、石岡)
私も2010年から2018年まで八代に勤務し、その間N2と関わりました。N2は高速であるが故に操業が難しく、

最初の1年間は試行錯誤の連続でした。しかし、現場全員が一丸となって改善を重ねた結果、2年目からは安定した操業が実現しました。N2は私にとって、苦楽を共にした相棒のような存在です。オペレータやスタッフ、係長たちとの絆も深まりました。時代の流れとはいえ、非常に寂しく感じています。

谷口本部長 (以下、谷口)
私は営業畑ですが、N2が稼働した2年後の2000年に九州営業支社で新聞用紙担当となりました。N2と初めて関わるようになりました。N2は最新鋭かつ日産700t以上の国内最大級の生産能力を持っていました。これは右肩上がりの新聞業界の需要を支え、安定供給を実現するた

めの武器であり誇りでもありました。
山邊 まさにその通りです。N2は八代のシンボルでした。2006年からの4年間、私が抄造課長として担当していた頃は、フル操業で生産高を上げなければならないプレッシャーがあった一方で、従業員皆の結束力が強まった時期でもありました。こ



の経験を力にして、今はN1マシン(以下、N1)で安定供給を果たすことを考え、取り組んでいます。

石岡 時代の変化を痛感しますね。新聞用紙の需要減少や脱炭素は時代の流れですが、N2で培った技術と伝統が決して消えるものではありません。それを生かし、未来につなげていくことが大切だと私も感じています。

谷口 2022年の福島県沖地震において、八代は岩沼工場(以下、岩沼)の全面的な支援を行いました。この時は東北の新聞社様にも八代品をご使用頂きました。全国に張り巡らされた物流網を駆使し、東北を始め東日本エリアに輸送ができたことも貴重な経験になりました。マシンがN1に代わっても、両工場で安定供給を続けていく方針に変わりはありません。過去の経験を生かしながら今後もメーカーとして、安定供給の使命をしっかりと果たしてまいります。



移抄の進捗について

山邊 かつてN1でも新聞用紙を生産していました。N2稼働後は高白新聞以外のほとんどをN2に移しました。2020年に新たなコンセプトの新聞用紙の開発に取りかかりました。脱炭素の流れを背景に、エネルギー使用

量の多い機械パルプの配合を減らし、従来に比べ石炭使用量の削減を目指した“環境対応紙”です。これまで6回の試抄を行ってきました。N2から引き継ぐN1品は環境対応紙となります。現在進めている印刷テストにおいてご評価を頂き、安定した品質の確立を目指します。

石岡 紙は抄紙機によって微妙に異なります。原料も同一ということはありません。岩沼では、N2の品質を再現できるよう日々八代と連携したことにより、その特性を理解することができ、現在新聞各社様で印刷テストを進めさせて頂いております。

谷口 紙は抄紙機によって微妙に異なります。原料も同一ということはありません。岩沼では、N2の品質を再現できるよう日々八代と連携したことにより、その特性を理解することができ、現在新聞各社様で印刷テストを進めさせて頂いております。

谷口 両工場が連携しながら進めていることは営業としても心強い限りです。昨年8月のN2停機発表後、各新聞社様にはその背景などをご説明させて頂きました。N1や岩沼への移抄に対し、不安の声もありました。各社様からのご意見に耳を傾けながら、今後も岩沼、八代2工場体制を続けていくこと、今回の決断は新聞用紙の持続可能性を追求するために必要な対応であることを丁寧にお伝えしてきました。各社様のご理解にこの場をお借りして改めて感謝申し上げます。

山邊 八代では皆様にも一日でも早く安心して頂きたいとの思いでN1の試抄に臨んでいます。高白新聞以外の用紙生産は数十年ぶりですので、試抄を重ねながら操業面、品質面の課題を洗

い出し、その都度条件を見直して検証してきました。そして課題を一つずつ解決し、現在はN2品と比べて遜色ない品質レベルまで到達したと手応えをつかんでいます。お客様の信頼に応えられるよう、引き続き品質対応をしっかりと行っています。



石岡 私自身9年間の八代勤務時代には印刷立会いや新聞社訪問を重ね、様々なことを学ばせて頂きました。実は、岩沼の技術室、製造部には九州出身者が多く、これも何かのご縁だと感じています。印刷テストでは技術室や製造部と一緒に印刷立会いをし、印面、作業性など確認をしています。何度も足を運び品質を確立させると共にお客様との信頼関係を築ければと思っています。また、生産体制の再編においては高白新聞の一部を2年ぶりに岩沼で生産します。この高白新聞はエコブライトという名前に変更し、モデルチェンジします。こちらも併せてしっかりと品質の確立を目指してまいります。

谷口 印刷テストも順調に進んでいると感じています。既に多くの新聞社様から切り替えのご了承を頂いています。本社新聞営業部員も現地と一緒に立会いを行っています。全員でスクラムを組み、八代N1品、岩

沼品ともに安心してご使用頂けるよう全力を尽くしていきましょう。

新聞用紙事業の今後について

谷口 いつの時代においても新聞用紙を安定的に供給することが当社の使命です。その一方で、新聞用紙事業には4つの課題があると考えています。①需要減への対応、②GHG削減、③原料の安定調達、④物流問題です。これらの課題にしっかりと対処し、新聞用紙の持続可能性を高めることが安定供給につながっていきます。しかも、今後世界的な人口増により資源の枯渇が予想され、資源に乏しい日本においてはエネルギーセキュリティの観点からも資源自律の重要性が増してくると思います。国内に豊富な森林資源を有効に活用することが資源自律につながりますが、そのためには、工場のデザインも新しい形へ変えていくことが必要であると思っています。

山邊 八代は昨年10月15日に創立100周年を迎えました。N2の跡地には新たに家庭紙のマシンが新設される予定です。これに伴い、機械パルプ製造設備の停機や、工場を支えてきた9号微粉炭ボイラーの停機により、石炭ゼロの工場となり、GHG排

出量の削減に大いに貢献します。八代はこの100年の間、戦争やオイルショックを乗り越え時代の変化に順応してきました。次の100年に向けて、新たな姿へ進化しようとしています。



八代9号微粉炭ボイラー

石岡 八代が石炭ゼロを実現することは、環境面において大きな進展です。同時に、岩沼でもGHG削減の施策の一つとして黒液の活用を柱とした燃料転換を掲げています。黒液は化学パルプ(KP)の製造工程から発生するバイオマス燃料で、これを最大限に活用することで、石炭に依存しない持続可能な生産体制を目指しています。この取り組みは、当社にとっては非常に重要なテーマです。

谷口 そうです。黒液利用の最大化は重要なテーマで



黒液



N1マシン

飼料「元気森森®」を製造しております。当社で最初にチャレンジした工場です。開始から数年が経過しましたが、お客様で畜産農家の皆様から高い評価を頂いており、採用件数も増加しています。生産量も着実に拡大しており、更に八代でも製造を開始し、試験販売が開始されるなど、事業の広がりを感じています。



山邊 八代の「元気森森®」は九州産の杉チップを原料としていることから、牛の飼育が盛んな九州地域においては、地産地消のモデルに



元気森森®

常務執行役員
八代工場長
やまべ よしきだ
山邊 義貞

1964年5月18日
出身地 / 長崎県



略歴

1987年	3月	熊本大学工学部 生産機械工学科 (卒業)
	4月	十條製紙株式会社入社
2006年	10月	日本製紙株式会社 八代工場抄造部長代理
2010年	7月	同社 岩国工場抄造部長
2014年	7月	同社 北海道工場白老事業所長
2016年	6月	同社 参与北海道工場長代理 兼白老事業所長
2017年	6月	同社 参与秋田工場長
2020年	6月	同社 執行役員富士工場長
2024年	6月	同社 常務執行役員八代工場長

執行役員
岩沼工場長
いしかわ なおひろ
石岡 直洋

1964年8月31日
出身地 / 静岡県



略歴

1987年	3月	群馬大学工学部 機械工学科 (卒業)
	4月	大昭和製紙株式会社入社
2007年	10月	日本製紙株式会社 石巻工場抄造一部長代理
2009年	10月	同社 技術本部生産部 主席技術調査役
2014年	7月	同社 八代工場製造部長
2018年	6月	同社 参与八代工場長代理
2019年	6月	同社 参与岩国工場長代理
2022年	6月	同社 執行役員岩沼工場長

執行役員
新聞営業本部長
たにくち てつあき
谷口 哲章

1964年4月17日
出身地 / 富山県



略歴

1987年	3月	創価大学法学部 (卒業)
	4月	十條製紙株式会社入社
1988年	5月	同社 新聞用紙営業本部
1992年	3月	同社 洋紙営業本部
2000年	4月	日本製紙株式会社 九州営業支社 担当課長 (新聞担当)
2006年	10月	同社 東北営業支社 支社長代理 (新聞担当)
2010年	7月	同社 新聞営業本部新聞営業部 部長代理
2018年	7月	同社 新聞営業本部長代理 兼新聞営業部長
2021年	6月	同社 執行役員新聞営業本部長

日本製紙石巻硬式野球部

成長の一年

東京ドーム・京セラドームで躍動

2024シーズンもご声援ありがとうございました！

昨年、日本製紙石巻硬式野球部は4年ぶりに都市対抗野球大会へ出場し、11年ぶりの勝利を上げると、秋には7年ぶりに社会人野球日本選手権大会にも出場し、同一年度での東京ドーム・京セラドーム大阪の両ドーム出場を達成。チームの歴史に新たな一ページを刻みました。

前号では就任から都市対抗予選を中心にご紹介しましたので、今号は東京ドームと京セラドームでの戦いを中心に振り返ります。

日本製紙石巻硬式野球部コーチ(元かわら版NIPPON編集委員) 沖山 勇介



11年ぶりの歓喜！執念の逆転劇

7月23日、チームは4年ぶり、個人としては7年ぶりに帰ってきた東京ドームの一塁側スタンドは、平日の昼間にもかかわらず大観衆が埋め尽くし、熱気と共に日本製紙ブルーに染まっていた。知っている顔が至る所に見える。その光景を眺めながら東京で過ごした6年間の営業生活や2月に復帰してからの半年間が走馬灯のように駆け巡り、「この舞台に戻ってこられて本当に良かった。」と感傷に浸りながら試合開始を待っていた。

相手は福岡市・KMGホールディングス。好投手を擁し投打が噛み合った試合の連続で九州予選を勝ち抜いた勢いのあるチームで、後に阪神タイガースからドラフト3位指名を受ける木下投手攻略がこの試合の鍵となっていた。

実は2017年にHONDA熊本、2020年に西部ガスと過去2大会連続で九州地区代表チームとの対戦に敗れており、3度目の正直で絶対に負けない戦いに燃えていた。

当社先発の生長は不安定な立ち上がりが課題で、初回の失点率が高い、ましてや新人ながらチームの4年ぶりのドームでの先発、浮足立つことは分かっていた。実際初回到1点を失ったが正直なところ、これは想定内であり、むしろいつも通りの生長で安心したくらいであった。前日のミーティングでも冗談半分で「多分生長は初回到1点取られるから、2回から0対1スタート、早めに追いついて6回までにリードしているのが理想の展開。」と話していたくらいであった。

2回以降はいつも通り持ち味を発揮し、5回まで0を並べ先発の役割

を全うしてくれた。その間に打線が木下投手を捕らえ逆転、6回を終え3対1でリードする想定通りの展開となった。しかしこのまま簡単に終わらないのが野球の醍醐味、前号でも記したように野球は7、8、9回が本当に面白い。

この試合では7回に逆転を許し、9回に逆転に次ぐ逆転で、今大会の一回戦では一番白熱した試合であったのは言うまでもない。

9回の逆転劇はそれを呼び起こす要因が幾つかあった。まずは今大会リリーフに回ることになった、右のエース秋田が8回裏の相手打線を3人で抑えたこと。秋田は予選では先発としてチームを支えたが、今一つ調子が上がらなかったことで配置転換を行った。そんな悔しさも持ち合わせたエースが気迫の投球で相手打線を3人で斬ったことで反撃のムードが整い、先頭打者へ代打・ベテランの小野を送る。この起用も、7回からリリーフしていた相手投手の球に合うと判断し送り出し、見事にヒットで出塁。ここで次打者の宮川がバスターエンドランを決め無死1・2塁の絶好機を作った。このバスターこそ、今季の石巻野球を象徴するシーンで、チーム内で徹底してきたつなぎの打撃をこの大舞台の最終局面で発揮、宮川も補強選手が加入したことにより、スタメンからベンチスタートになった一人で悔しさは人一倍、それを分かっているベンチのボルテージも最高潮となり、あとは補強の石井選手に託すだけ、石井選手も見事に応え同点、佐藤も続き逆転となった。

各々が自分の役割を理解し、それを全うしたことで起きた、偶然ではなく組織力で生まれた必然の逆転

劇となり、11年ぶりに東京ドームでの勝利となりました。

後ろにつなげ！

投手陣総力結集の2回戦

2回戦の相手は、1回戦をコールドで勝ち上がった強打が売りの大阪市・NTT西日本。

ゲームプランは、投手陣を細かくつなぎ最少失点でしのぎ、終盤までロースコアに持ち込んで、最後にひっくり返す。選手へは「序盤失点しても慌てず、3点以内差で終盤を迎えよう、ピッチャーは中盤までに7人使うつもりだから、野手は守備長くなるけどみんなで耐えよう。」と伝え、6回までに6投手を継投し、初回の2点のみにしので、0対2で終盤を迎えた。スコア的には想定通りの展開だったものの、相手投手の出来が予想以上によく何もできずに完封負け。投手陣も終盤に崩れ、終わってみれば0対9の大敗、投手陣10人を注ぎ込むもNTTの壁は厚く、2回戦敗退となりました。それでも9点差で迎えた最終回の攻撃で響き渡った大声援はこれまで以上に大きく、最後まで諦めないエネルギーとなりました。

王者への挑戦！

7年ぶりの京セラドーム

11月2日、7年ぶりに帰ってきた京セラドームには大雨の中、約2,300人の観衆が駆け付け、大声援を背に、王者・トヨタ自動車へ挑みました。トヨタ自動車は2022年の日本選手権、2023年の都市対抗チャンピオンであり、強力投手陣を中心とした守りの強いチーム。

ゲームプランは、序盤にチャンスはそんなにないが、ただ簡単にアウトにならず、相手バッテリーに苦勞させてアウトを献上すること、全員でボディーブローを続けていき中盤以降必ずくるチャンスで一気に攻める。それまで守備は我慢して守り抜くこと。序盤に失点しても慌てず、最少に抑えること。勝つならロースコアで2対1、3対1。負けるなら2対5、2対6。そんな想定で試合に臨みました。

試合は先発生長の立ち上がりを攻め立てられ、いきなり5点のビハインド、打線も相手投手陣に抑え込まれ、終わってみれば2対8の大敗となりました。

この試合では野手15人が全員出場、都市対抗で登板の無かった投手も登板し、選手26名が同一シーズンで全国の舞台を経験できたのは恐らく当社だけであり、来季へ向け大きな成長を遂げる一年となりました。一方で両ドーム合計21失点を喫したことを胸に刻み、来季はチーム史上初となる2年連続での都市対抗、日本選手権出場、そして全国ベスト8への挑戦となります。今年も日本製紙石巻野球部の戦いにご注目ください！



日本製紙ランナース77 活動報告

第34回 ぐんまマラソン

モチベーションアップ大作戦

かわら版NIPPON 編集委員 平岩 兼一



77はフルマラソン42.195kmを新聞用紙に換算すると約77連(77,000枚)であることが由来となっています。



私にとって2年連続の参加となる「第34回ぐんまマラソン」が昨年11月3日、見事な快晴の中、過去最高の15,266名がそれぞれの思いを胸に群馬の地を駆け巡りました。谷口本部長を筆頭に新聞営業本部より4名、バイオマスマテリアル事業推進本部より2名の計6名が参加。周囲から



の半ば強引な要請により私のフルマラソン初挑戦が決定。渋々引受けましたがやるからには徹底的にやりたい性分。
まずは本屋で指南書探し。「マラソンは歩いてもいい」「練習は週に3日がベスト」ゆるい内容にイケそうな気が。目標は歩かずに完走、あわよくば初心者が目指すという4時間切りも追加。お告げを信じ練習を開始するも、内から込み上げてくる何かが足りない。願掛けはあまり好まないのですが、娘の高校受験合格という題材をモチベーションアップのために使うこととしました(怒られそうなので家族には内緒)。人は自分のためではなく、誰かのためになら辛いことも乗り越えられる。愛する娘のためとあれば効果は絶大。猛暑日の中でも身体中が痛くても、何とか気を奮い立たせて練習

に取り組み、無事に本番当日を迎えることができました。
コースマップはインプット。イメトレもバッチリ。ドキドキとワクワクが交錯するスタート地点。長かった挑戦もあと42.195キロで終わる、などと感傷に浸る間もなく8:55スタートの号砲とともにガヤガヤと民族大移動の開始。気温は高めだが心地良い風に気分は上々。ペース配分に注意しながらも頭の中には、赤ちゃんの頃から受験生にまで成長した娘が走馬灯のように現れる。あれ？ひょっとして我が身に何かが？ゾツとしつつもおかしな状況にニヤリとしてしまう。30km付近を過ぎると噂通りに辛くなってきたものの「娘の合格が掛かっている」と自己暗示が効いている私は無双状態。最後までさほどペースダウンすることなく目標達成。娘よ！これで合

格間違いなしだ！最後になりましたが上毛新聞社関係各位へ改めて感謝申し上げ、作戦大成功の報告とさせていただきます。



スタート前「正田醤油スタジアム群馬」にて
左から齋藤、谷口、佐藤、平岩、櫻井、廣本

	タイム	種目
谷口	66分55秒	10km
廣本	61分02秒	10km
櫻井	56分50秒	10km
佐藤	4時間09分03秒	フル
齋藤	5時間50分02秒	フル
平岩	3時間31分58秒	フル

レースを終え安堵の平岩

第38回 太陽と海とジョガーの祭典 NAHAマラソン完走記

九州営業支社 齋藤 泰之

去る12月1日、ジョガーの祭典「NAHAマラソン」が開催された。第38回を迎え24,000人が集結、当社より5名(九州営業支社、バイオマスマテリアル事業推進本部)が出走した。私は11年ぶり3度目の挑戦となった。
快晴の下、奥武山公園に号砲が鳴り響く、スターターはガレッジセール

のゴリ。私は後方に並んだため、スタートライン通過時には18分経過していた。焦らずマイペースを心掛ける。「がんばれー！バナナどうぞ！黒糖あるよ！塩飴どうぞ！」途切れることのない沿道の声援と補給食でパワーをもらい前進する。本当にありがたい。そんななか国際通りで「ハブ酒いかがですかー！泡盛どうぞー！」え？嘘でしょ。元気出すぎちゃうでしょ？アルコールを入れる勇氣はなかった。10キロ地点、順調にきていた脚に異変が。重い、脚が重い。那覇の日差しが容赦なく体力を奪っていく。この先中間地点まで一気に標高70メートルを駆け上る。大体ここでランナーの足が止まる。私も止まった。きつい、登れない、17キロ地点から歩く。走っているの



完走メダルでピース 中嶋 齋藤

か歩いているのか分からない時間が続く。中間地点で3時間を超えていた。制限6時間、「もう無理だ」心が折れた。しかし、もうろうとする頭で一応計算してみる。キロ8分ペースで残り21キロ…、いける！可能性がある限り諦めたくなかった。一步一步走り始める。35キロ地点、塩飴を頂きに沿道へ駆け寄ると、「冷凍マンゴーどうぞー！」えッー！マンゴー！！しかも冷凍。冷たい糖分が一気に体へ染み渡り完全に生き返った、ありがたい命のマンゴー。残り7キロいける、とにかく脚なんか痛

くないと暗示を掛け走り続ける。見えた、ゴールが見えた。ボランティアの高校生とハイタッチを交わし、声援される武富社長へ一礼、5時間48分で完走。この大会で私は何度「ありがとう」と言っただろう。カラダは疲れていたが心は達成感で満たされていた。諦めなければゴールは待っている。オリオンビールを飲み干し、沖縄の太陽と海に酔いしれた至福の一日となった。
準備・運営に関わられた沖縄タイムス社の皆様に御礼を申し上げます。ありがとうございました。



ゴール後 齋藤のガッツポーズ